

2010.12.22 「石もて追われる小沢一郎」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は『Le Petit Journal』というフランスの新聞の話から始めたいと思います。これは1904年3月6日付けの記事には、日本の軍旗が翻っているイラストが掲載され、その下にはフランス語で「極東での出来事―大日本帝国が軍旗を渡す」と書いてあります。これは日露戦争がはじまった直後に、軍旗が渡されていよいよロシアと大々的な戦争をすることが報じられているということです。また、同じ新聞『Le Petit Journal』（1930年の11月9日）に、運動会で日本人の子供達が襲われている様子が描かれており、「台湾で誘拐事件―中国人が日本人小学生を襲う」と書いてあります。この事件は、霧社事件という台湾の台中で起きた事件だそうです。日本が統治している間に、台湾で幾つか反日運動がありましたが、これは最大のもので、日本人小学校の運動会に反日活動家らが襲いかかり、140人の子供達が殺される事件があったということです。この新聞は二つとも、私がODAでベトナムとラオス、カンボジアを訪問した際に、ラオスのワットタイ国際空港の待合室に昔の新聞が並んでおり、たまたま日本の記事があったので二つ買い求めたものです。このように海外の視点から日本の歴史を見る機会が旅行に行くときにあるものですが、歴史というのは色々な側面がありますので、それらを一つ一つ検証していかなければならないと感じた次第です。

さて、私が日本に帰って一週間が経ちました。報道を見ていますと、民主党は小沢議員の国会招致をめぐる分裂の様相を来しているようです。小沢議員が国会に招致されるのは当然だと私も思っていますが、あまりにも唐突な民主党の対応にあきれてしまいました。先の臨時国会が12月3日まで開かれておりましたが、私も菅総理に質問しましたように、私達は小沢議員の問題を解決するため国会に小沢議員を呼ぶべきだと何度も提言してきました。また、菅総理が総理大臣になると同時に、「民主党の代表としてはっきりとリーダーシップを示すべきだ」とも申し上げてきました。また、予算委員会でも、参考人もしくは証人喚問を含めて、出席してもらうべきだと何度も提言してきましたのですが、菅総理は一切これにお構いなしで、「それは国会で決めて頂くことですから」と仰って、そのことについては一切ふれようとしませんでした。ところが、国会が終わって我々野党からも追及が出来なくなることを見極めると、今度は自らの党の中で岡田幹事長を中心に、小沢議員を政治倫理審査会、もしくは国会の証人喚問に出席させる雰囲気醸成させてきました。これは、誰か悪者を見つけて叩く事により、自分達の地位を固めたいからなのです。このことは、民主党の陰險な性質を端的に現しています。このような手法は典型的な左翼思想に通じる物であり、これまでもこの方々はそうしてきました。今までは野党でしたから、与党の自民党を叩けば、自分達の地位や人気が相対的に上がっていくという作戦で上手くその場をしのぐことが出来ました。そして、自民党を

叩きまくって政権を執りました。しかし実際に政権を執ってみるとなかなか思い通りに進みません。そこで自分達の政治が上手くいかないのは前政権、つまり自民党の責任なのだとすることをさかんに言い続けました。しかし、一年が経過し、前政権の責任と主張しても、それは自分達が天にツバしたことがそのまま自分達に戻ってきているということは誰が見ても明らかとなってきました。これが国民にも周知されたため、今や支持率はガタ落ちになっています。そして、このままでは政権の維持が危ういと判断し、今度は新たな敵を見つけることにしたのでしょう。それが小沢議員であり、今度は小沢議員一人を悪者にするによって自分達が浮き上がろうという作戦に出たわけです。本当に典型的な左翼思想であり、いやらしく、また卑怯な方々と言わざるを得ません。この様に考えてみると、小沢議員も気の毒だなと思えるくらいです。

今日は12月22日ですが、去年の今頃はどのような状況だったのでしょうか。国会が終わった後、小沢議員は600人の訪中団で胡锦涛国家主席に会うため北京に行きました。140人を超える国会議員が一緒について行って、みんなあの方と握手をして喜んでいたわけです。そして、その答礼として、習金平副主席が日本に来ると、こともあろうに天皇陛下に会わせてやろうと、天皇陛下の体調から考えられている日程調整の一ヶ月ルールを無視して、政治主導なのだから我々が言うように会うのが当然だと言わんばかりの傲慢な態度で臨んでいました。これは皆様方も覚えておられると思います。それが今や、驕れる平家は

久しからずの様相で、仲間からも石もて追われる立場になっているのです。これは悲劇というよりも、全くの喜劇であります。

このように、民主党政権はこの一年間に、叩く敵を自民党から小沢議員に変えました。これからも内輪もめは続くのでしょう。いずれにしても民主党政権はそう長くありません。そして、党自体がおそらく年内に分裂してしまうのではないのでしょうか。というのは、このままでは、来年は国会が始まる時に証人喚問をするようになるでしょう。しかし、当然小沢議員はそれを受けないだろうし、小沢氏の側近達も当然承諾出来ないでしょう。そうすると来年、小沢議員は証人喚問に反対することによって、党を離党せざるを得なくなります。しかし来年離党するよりも、今離党する方が得じゃないかと思うのではないのでしょうか。それは小沢議員がつくった政党助成金の条件があるからです。この政党助成金の法律では、12月31日の国会議員の数によって政党助成金を振り分けするので、今年うちに民主党と別れて政党助成金をもらえる条件を満たしておく方が小沢議員にとって有利なのです。ですから、年末31日に向けて民主党の内紛は分裂劇になり、菅内閣が死に体となるか、一寸先は闇で私はわからないと思っております。

これから予算案を出すと言っていますが、案を出してそれを予算書の書面につくり直すのに一ヶ月かかるので、結局国会が始まるのは1月の末でしょう。そして、それが始まった途端に、国会の招致や証人喚問があり、予算の審議で

立ち行かなくなるでしょう。そして、彼らが出す予算案自体がまともな案ではありませんが、予算の執行を認めないと国の事業はできませんから、とりあえず予算だけ通してしまう事も考えられます。そして、予算の成立と引き替えに、国民に見放された内閣に対して、その時点で信を問うことも十分ありえるでしょう。

いずれにしても、民主党政権は余命幾ばくであり、民主党の病巣が表にでてきておりますから、そう遠く無いうちに解散総選挙になると思っております。民主党政権が続く限り、国益を損なうことになると思っておりますので、1日も早く彼らの政権を潰し、政権を奪回したいと思っております。そのためにも、今は国会が閉会中ですが、新たな信を問うための解散総選挙を出来るよう、これから国会の外でいろいろな活動を通じて、皆さん方に訴えていきたいと思っております。ありがとうございました。